

「後期高齢者医療制度」のお知らせ

Vol.5 保険料を忘れずに納めましょう

後期高齢者医療制度は、加入者一人ひとりから保険料を納めていただき、ケガや病気になった方などを社会全体で支えている制度です。

皆さんから納めていただく保険料は、後期高齢者医療制度の運営や皆さんへの療養費などを支払うための大切な財源となります。

これからも健全な医療保険制度を維持していくためにも、保険料は期限内に納めましょう。

どうしても保険料の納付が困難な場合には...

住民福祉課の窓口では、納付相談をいつでも受け付けています。

現在の状況を聞いて、それぞれの事情に合った納付計画と一緒に考えていきますので、納付が困難な場合にはお早めにご相談ください。

火災などの災害や所得の著しい減少など、特別な事情により保険料の納付が困難なときは、申請により保険料の徴収の猶予や減免を受けられる場合がありますので、お早めに住民福祉課の窓口にご相談ください。

保険料の納付に口座振替をご利用ください

【保険料を納付書で納めている方(普通徴収)】

納付書で納めている方は、口座振替にすると保険料の納め忘れの心配や、納期のたびに金融機関に行く必要がなくなり大変便利です。

口座振替への手続きは、金融機関窓口にお申し込みください。

【保険料を年金から納めている方(特別徴収)】

年金から納めている方でも、手続きにより年金からの納付が中止され、口座振替による納付に変更することができます。

口座振替への手続きは、住民福祉課の窓口にお申し出ください。

【口座振替への 手続きに必要なもの】

振替口座の預金通帳
通帳のお届け印
保険証

家族名義の口座から納付した場合、社会保険料控除は、実際に負担した方に適用されます。これによって、世帯全体の所得税や住民税の税額に影響が生じる場合があります。

第17回 NIE 新聞記事感想文コンクール

関川小六年

長 宏美さん(宮前)が大賞を受賞



▲大賞を受賞した長宏美さん



みんなで頑張った 英語ミュージカル in 関川中文化祭

10月23日、関川中学校で文化祭が行われました。白雪姫をモチーフにしたミュージカル「Snow White」は台詞がすべて英語という力作。子育てサークル Peekaboo が中心となり、この日のために生徒や先生などと約1カ月半にわたり練習を重ねてきました。Peekaboo の田村優子さんは「中学生と協力したら一体どんなことができるんだろうとの思いから、世代を超えたつながりを大切に企画しました」と話していました。

また、地域の方たちを講師に招き、生け花や将棋、ホイップデコレーションなど気軽に学べるカルチャー講座や全校生徒が参加した討論会も行われ、生徒と地域の方で作り上げた素晴らしい文化祭となりました。

「第十七回 NIE 新聞記事感想文コンクール(県 NIE 推進協議会主催)」で、県内の小中高六十三校から二千五百十二点の応募があり、その中から長宏美さん(宮前・六年)の作品「祭に込められた願い」が見事大賞に選ばれました。

「物心がついた時には、もう新聞を読んでいました」。新聞の一面は必ず読み、村の記事が掲載されていると嬉しくなるといふ長さん。今回の大賞を受賞したのも新聞で知りました。「朝起きて、すぐ知らされたので夢かと思いましたが、すごく嬉しかったです」と大賞受賞を喜んでいました。

NIE (Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」と読みます)は、学校などで新聞を教材として活用することです。

「祭に込められた願い」

長 宏美

(六年・宮前)

私たちの学級では、「新聞スクラップ」に取り組んでいます。自分が気になった記事を切り抜き、記事の主な内容や感想を書き加えます。家族にも同じ記事を読んでもらい、感想を書いてもらっています。

ある日、何かいい記事がないかと新聞を見てみると、「大したもん蛇まつり」の記事を見つけました。自分が住んでいる関川村のお祭りが新聞の一面で紹介されていることに、何だかとても嬉しい気持ちになりました。

このお祭りは、わらと竹で編んだ大蛇を、大勢の村の人たちがかつぎ、村中をパレードするお祭りです。ゴールの村役場で全長八十二・八尺の大蛇がとぐるを巻くと、観客から大歓声が上がります。記事には、今年も大勢の観光客が訪れたことが書いてありました。「大蛇を見るのは初めて。迫りに圧倒された」という、私と同じ小学六年生の感想を読んでも、まるで自分がほめられているような気持ちになりました。

ました。

このお祭りは、毎年八月二十八日に行われます。それは、今から四十三年前の昭和四十二年のこの日に起きた「羽越水害」の犠牲者をなぐさめるという意味が込められているからです。

私は六年生ですから、当時のことはよく分かりませんが、そこで新聞記事のことを話し、父に当時の様子を聞いてみることにしました。

父の話では、この水害では、三日間ぐらいも大雨が続き、川があふれて橋が流され、あちこちで山がくずれたということでした。雨がやんだ後の家はぐちゃぐちゃで、新しく家を移さなければならなかったほどでした。また、多くの人々が亡くなったという話も聞きました。

私は父の話を聞いて、とても心が痛みました。それと同時に、悲しみを乗り越えて村の人みんなが楽しむことができるお祭りを作った関川村の人たちは、すごいと思いました。

新聞記事を読むことを通して、自分が住む地域のすばらしさに改めて感動しました。